

第三次

松田町子ども読書活動推進計画

令和5年3月

松田町教育委員会

目次

第1章 子どもの読書活動をめぐる動向

- 1 子どもにとっての読書活動の意義
- 2 国、県の読書活動計画の動向
- 3 「第三次松田町子ども読書活動推進計画」策定にあたっての位置づけ
- 4 期間

第2章 第二次計画期間における取組

- 1 家庭、地域、学校を通じた子どもの読書活動の取組
 - (1) 家庭における子ども読書活動の推進の取組
 - (2) 地域における子ども読書活動の推進の取組
 - (3) 園、学校における子ども読書活動の推進の取組
- 2 課題
 - (1) 家庭での読書の意義の周知
 - (2) 図書館や学校図書室の利用促進

第3章 第三次計画推進のための基本的考え方と方策

- 1 取組スローガン
- 2 めざす子どもの姿
- 3 基本方針
 - (1) 子どもが読書に親しむための環境づくり
 - (2) 子どもが読書に親しむための情報収集・発信
- 4 具体的な方策
 - (1) 家庭における子どもの読書活動の推進
 - (2) 地域における子どもの読書活動の推進
 - (3) 園、学校における子どもの読書活動の推進

第1章 子どもの読書活動をめぐる動向

1 子どもにとっての読書活動の意義

子どもの読書活動は、『子どもの読書活動の推進に関する法律』（平成13年12月施行）第2条の基本理念として、「子どもの読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きるための力を身につけていく上で欠くことのできないもの」とされています。

読書を通して子どもは、人とのコミュニケーションの基礎を築き、他者への思いやりの心を育むことができます。また、多くの知識を得ることや多様な文化に触れることで、子どもは学ぶ楽しさや知る喜びを得ることができます。読書は、子どもの成長にとって大きな意義をもつものであり、自立した一人の人間としての人格の形成に大変重要なものです。

例えば、乳幼児期の子どもは、心を込めて本を読んでもらうことで、読み手から愛情を感じ取り、人への信頼感や情緒の安定を得るだけでなく、言葉や感情をとおして、読み手とのコミュニケーションを深めます。

また、児童期の子どもは、今の自分と本の中の登場人物を重ね合わせていたものが、成長する過程の中で、次第にその人物を客観的にとらえられるようになり、青年期になると、さらに、自分の将来と関連づけ、社会の一員としての自分の姿を考えるようになります。

こうしたことから、子どもの読書活動を推進し、すべての子どもが、あらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことが重要です。

2 国、県の読書活動計画の動向

国では、平成13年12月に『子どもの読書活動の推進に関する法律』を公布・施行し同法を踏まえ、平成14年8月に「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を策定しました。神奈川県では平成16年1月に「かながわ読書のススメ（神奈川県子ども読書活動推進計画）」（第一次計画）、平成21年7月に「第二次計画」、平成26年4月に「第三次計画」、平成31年3月に「第四次計画」を策定し、家庭や地域、学校等や関係機関・団体における子どもの読書活動の推進を図るため、様々な取り組みを実施してきました。

3 第三次松田町子ども読書活動推進計画」策定にあたっての位置づけ

「子ども読書活動推進基本計画（文部科学省）」及び「神奈川県子ども読書活動推進計画」等を踏まえ、平成18年6月に「松田町子ども読書活動推進計画（計画期間：平成18年度から平成23年度）」を、平成30年12月に「第二次計画」を策定し、読書活動の充実に取り組んでまいりました。

現在、松田町教育大綱（令和元年度から4年度）の中では、いつでも、どこでも、だれもが安全かつ安心して学べる環境づくりと質の高い教育の推進を図り、生涯にわたり、夢と希望をもち、主体的に自らの人生や未来を拓き、地域や国際社会の発展に貢献できる次代の担い手と、松田町への誇りや愛着を高め、伝統と文化を尊重し、豊かな地

域文化を継承・発展・創造していくことができる人材を育成し、「質の高い学びで次代の担い手と文化を育む」としています。

生涯学習の重点として、「読書活動の推進」を掲げ、「子ども読書活動推進」「図書館事業の推進」を図るとしています。

したがって、今回策定する「第三次 松田町子ども読書活動推進計画」では、これらに配慮し、「子ども読書活動推進」「図書館事業の推進」に向けて具体的な推進方法などを明記する計画として位置付けています。

4 期間

令和5年度から令和9年度までの5年間とします。

第2章 第二次計画期間における取組

二次計画の改定から5年が経ち、子どもや親の考え方やそれを取り巻く社会環境、文化、娯楽、電子機器、生活環境の変化、教育を受ける環境の変化、コロナ感染症による生活の制限など様々な状況が変化しています。

そこで、令和元年度及び令和4年度に松田町社会教育委員会議が調査した「家庭における読書活動アンケート」等を参考に、現在の読書環境の実態を把握し、検証を行いました。

1 家庭、地域、学校を通じた子どもの読書活動の取組

(1) 家庭における子ども読書活動の推進の取組

毎月第1日曜日を「家読（うちどく）の日」と位置づけ、子ども読書活動の重要性について普及啓発を行いました。松田町 社会教育委員会議が調査した「家庭における読書活動アンケート」（以下「調査」と記載）によれば、令和元年度調査では、「家読の日」の認知度が1割だったのに対し、令和4年度調査では8割になりました。令和4年度には、青空読書会を実施し、家読の日における読書活動の推進を図ることができました。「家読の日」の周知は進んだと言えます。

検診時にブックスタート事業としてファーストブックが手渡され、福祉ボランティアによる読み聞かせや町図書館活動など各種PRチラシの配付が行われています。令和4年度の調査では、「よく活用した人」が48%、「ときどき活用した」が29%で約8割の人が活用しており、一定の効果があったと言えます。

「家庭での読書」については、子どもの73%が少なくとも週1回以上読書をしています。毎日読書をしている子どもは18%いました。「絵本の読み聞かせ」についても81%の人が実施しており、そのうち半数が、子どもが「好き、喜ぶ」から実施していると回答しています。

(2) 地域における子ども読書活動の推進の取組

学齢期の子どもの利用が減少しているため、幼児向けおはなし会や親子で参加できる読書マラソン、タイムカプセル、ハロウィンイベント等を新設し実践を図りました。町

の広報紙にて毎月新着図書のPRを行い、夏休みの司書体験など本にちなんだ行事を行いました。

幼児向けに行っているおはなし会の参加者は減少しています。これまでのおはなし会だけではなく、「おひざにだっこのおはなし会」など年齢層を絞ったおはなし会も実施しています。今後さらに、保護者に理解を得るような呼びかけが重要となります。

町図書館を利用したことのない小学生や中学生が増えています。令和4年度調査では、「あまり利用しない」「利用したことがない」と回答した子どもは65%でした。理由としてはコロナ感染症のための公共機関の敬遠もあり、「購入本を読む」子どもが32%「時間がない」35%などでした。子どもが本の楽しさに出合う機会を増やすとともに、幼児や小学校低学年を意識した読書環境を充実させることが、今後の図書館利用推進に直結すると考えます。

(3) 園、学校における子ども読書活動の推進の取組

松田幼稚園では、コロナ禍以前には、町図書館から幼稚園の公開日に保護者と園児が本を選ぶことのできる団体貸出を実施し、町図書館への利用者が増加しました。また、読書を日常生活の中に位置づけ、教師による読み聞かせを毎日実施しています。

学校での読書活動を充実させるため、学校支援ボランティアが導入され、学校図書館における図書の展示や配架状態、壁面飾りなどが充実し、図書館の環境が明るく親しみやすいものになっています。松田小学校では、校舎新築に伴い学校図書室も新しくなり、読書環境が整いました。また、データベース化により貸し出し等の効率が上がりました。寄小学校では、図書ボランティアにより、本の配架の仕方を整理し、選書しやすい環境づくりが行われています。

松田中学校では、図書委員会の生徒を中心に本の配架の工夫や紹介文の作成など読者や学習に適した環境づくりを主体的に行っています。

小・中学校では、朝の読書時間を設けることにより、本と出合う機会が生まれ、本と親しむきっかけづくりや心の落ち着きに繋がっています。しかしながら、令和4年4月実施の全国学力学習状況調査「質問紙調査」では、小・中学校共に「読書は好きですか」について低い傾向があることがわかりました。そのため、今後さらにその要因を追究し、改善していく必要があります。

幼稚園・保育園における「読み聞かせ」と、学校における「読書タイム」は、子どもたちにとって貴重な読書体験の場です。令和4年度調査では、「楽しい」「気持ちが落ち着く」「ためになる・勉強になる」を合わせて80%になっています。子どもにとって「読み聞かせ」「読書タイム」は、大切な時間であると考えます。

2 課題

(1) 家庭での読書の意義の周知

①家読における読書の推進

ア 家庭での読書については、保護者も子どもも、わずかではありますが増えていきます。「読書をする」理由として、子どもは年齢が上がるにつれて、「好き・楽しいから」する読書から、「気分転換・落ち着くから」する読書が増えていきます。読書

の持つ情緒面への働きも重視していく必要があります。記述欄からは、読書が習慣化し、本の世界を楽しむことができる子どもの様子もうかがえます。読書活動の推進を今後も続けていく必要があります。

- イ 町のブックスタート事業の活用、週の読み聞かせの回数、図書館の利用などで、読書活動を進めている人が増える一方、読書活動に関心の薄い人も増えているといった「二極化」の傾向が表れています。読書の意義を伝え、喜びを体験できる機会の提供を考えていく必要があります。

② 読み聞かせの大切さの周知

- ア 幼少期の保護者による「読み聞かせ」や保護者とともに図書館へ出かけ本を選ぶ経験は、ひとりで図書館や図書室に出かけ本を借り、読むことに大きく繋がっていると考えます。今後も、家庭における読書活動を推進するために、園や学校、図書館の力も借りながら、色々な工夫をしていく必要があります。
- イ 保護者は、子どもが小さいほど「時間がない」ため、「読書できない」「読み聞かせができない」としています。就寝前の時間をうまく活用している事例も多く記述されていて、こうした事例を紹介することで、読書や読み聞かせの大切さを知らせていく必要があります。
- ウ 様々な読書活動を推進しているところですが、更なる読書活動を充実させるためには、家族で読書を行うことの効果や大切さのPRを行う必要があります。子どもにとって身近な保護者が読書を楽しむ姿勢を見せることは、子どもの読書意欲を起し、最初は大人の真似だったことが、いつのまにか自分自身が読書を楽しんでいることとなります。

(2) 図書館や学校図書室の利用促進

- ア 町の図書館の利用については、保育園の保護者の活用が大きく増えています。コロナ感染症による影響で、図書館の本を活用したのではないかと考えます。反対に、中学生の図書館や図書室の利用が減っています。調査の中では、購入した本を利用している様子もうかがえます。

第3章 子ども読書活動推進のための基本的考え方と方策

1 取組スローガン

「 いつも そばに 一冊の本を 」
～本との出会いを楽しみに 本に学ぶ 思いやりの心 生きる力～

このスローガンには、日常生活の中で本との出会いを楽しみにしながら、子どもが本を身近に感じそばに置くことで、人生を歩いていく道しるべにしてほしいという思いや読書を通して、本に学び、本の中で自由に心の翼を広げ、思いやりの心やより豊かに生きる力を身に付けてほしいとの願いを込めています。

松田町の子ども読書活動を推進する上で、めざす子どもの姿を明確にし、そのための具体的な方策を次のとおり推進していきます。

2 めざす子どもの姿

(1) 本との出会いを楽しみにする子

読書によって得られる、さまざまな発見や新しい世界との出会いは、新たな本への興味・関心を高めます。子どもが自ら本にふれ、本を読みたいと思うような、本との出会いを楽しみにする子どもの育成をめざします。

(2) 本から学び、知ることの喜びを感じる子

読書習慣を身に付け、学ぶことや知ることの喜びを、読書を通じて感じることができ子どもの育成をめざします。

(3) 本から感じ、思いやりの心を養い育てる子

読書をすることで、他者に共感し、人の痛みや人と人とのつながりの大切さを感じとるなど、思いやりの心をもった子どもの育成をめざします。

(4) 本を糧とし、生きる力につなげる子

読書により、自立した一人の人間として、人生をたくましく生きる力をもつ子どもの育成をめざします。

(5) 本を生活に活かし、社会とかかわる子

読書により得られた力で社会とかかわることにより、自己を成長させ、将来、社会に貢献できるような子どもの育成をめざします。

3 基本方針

二次計画から引き続いた子どもの読書についての考え方を検証しつつ、実態に即した次の2つを基本方針に掲げ、子どもの読書計画の推進を図ります。

(1) 子どもが読書に親しむための環境づくり

子どもが読書に親しむためには、あらゆる機会とあらゆる場所において、読書への関心を高める「環境づくり」を推進する必要があります。

家庭、地域、学校等、専門・関係機関及び団体等における取組の充実と連携を図り、子どもの読書活動の推進に向けた「環境づくり」を進めます。

(2) 子どもが読書に親しむための情報収集・発信

子どもの読書活動を推進するためには、読書活動の意義や重要性について広く普及啓発に努める必要があります。

そこで、関係機関等を活用し、より一層の普及啓発活動に取り組みます。また、子どもの読書活動の取組について情報収集を行い、情報発信していきます。

4 具体的な方策

(1) 家庭における子どもの読書活動の推進

① 「家読の日（家族ふれあい読書の日）」の普及啓発

保護者が読書活動の大切さや意義について理解していただくよう、家族ぐるみで読書する環境として、家庭における読書（家読）を推奨するための普及啓発に努めます。

子どもにとって身近な家族が読書を楽しむ姿勢を見せることを推奨する機会として毎月第一日曜日を「家読の日（県：ファミリー読書の日）」としています。今後、この日をさらにPRすることで、子どもの読書意欲を高めます。

また、学校、幼稚園・保育園との連携強化をすることで、家庭における子ども読書の推進を図ります。

② ブックスタートの継続

3ヶ月検診時に本とともに絵本の大切さを伝える本を配付するとともに、推奨するブックリストなどを配付し啓発を行います。

③ 読み聞かせの推奨

読書によって見たことも、聞いたこともない新しいこと、変わったことを体験できるのは、本でしか味わえない体験であり、文章で書かれたことに血が通うか、創造の翼を羽ばたかせられるかは、読書が習慣化しているかにかかっています。そのため、読書を行う習慣を身に付けるには、子どもにとって身近な保護者が読書を楽しむ姿勢を見せることが必要であると考えます。

また、幼児期における読み聞かせ活動（親子による、ボランティアによる）の充実を図ることで読書活動の基盤をつくり、読書への興味をもつ子に育てるため、図書館や幼稚園・保育園、学校を通して、読書の意義の周知を図ります。

(2) 地域における子どもの読書活動の推進

① 町図書館における子ども読書活動の推進

ア 推進拠点としての役割

町の読書環境を推進する拠点としての役割を担い、読書活動の普及啓発に努めます。

町の読書環境を推進する拠点として、情報の収集、発信、連携に努めます。幼稚園・保育園、学校との連携を深め、必要に応じた支援を行えるようにします。

イ 利用しやすい環境づくり

利用者が利用しやすい環境づくりのために、ハード面での環境整備に努めるとともに、図書館運営がスムーズに行えるような人的配置に努めます。成長の段階に応じた読書のすすめを行い、自分に合った本を探することができるよう努めます。

ウ 読書ボランティアの養成

講習会等を開催し、ボランティア養成に努めます。

エ 普及啓発活動

読書の効果についてのPRとして、町の広報紙の活用、ホームページや掲示物での周知、家庭教育学級などへちらしの配付などを行い、読書の必要性を町民に伝えられるように努めます。

オ 町図書館を利用したことのない子どもたちへの働きかけ

幼稚園、保育園、学校等と連携し、家庭への広報用チラシの配付、図書の団体貸出、リクエスト貸出などを積極的に推進します。入園、入学時にちらし等で図書館の利用方法を周知し、図書館の利用を保護者や子どもたちに促します。

②関係機関及び団体等における子ども読書活動の推進

ア ボランティアの実施するおはなし会は、町図書館と連携することにより、推進の拡大を図ります。

イ 地域の子育て関連施設など、子どもの集う場所で本に触れる機会を増やすための工夫に努めます。

(3) 園、学校における子どもの読書活動の推進

① 幼稚園・保育園における読書活動の推進

ア 町図書館おすすめ本のブックリスト配付

ブックリストの配付を継続し、同時に親子での本読みの重要性、効果をPRしていきます。

イ 町図書館の使い方のちらし配付

家庭、学校で本に親しむきっかけづくりを行います。

ウ 幼稚園の公開日に団体貸出

本との出会いの場を創出し、身近な読書環境の整備を行います。

エ 読み聞かせ会の充実

幼稚園・保育園と連携して、読み聞かせの充実を図るようにします。

② 小学校・中学校における読書活動の推進

ア 町図書館との連携

学校司書や図書担当教諭との連携などを行うよう、町図書館が架け橋となり、情報の共有に努めます。町図書館との連携を図りつつ、読書を推進するための環境整備に努めます。

イ ボランティアの活用

自主的、主体的な学習支援ができるボランティアを育成し、ボランティアによる学校図書室の環境づくりや読み聞かせ会等の充実を図るようにします。

ウ 子どもたちの朝読書のさらなる推進

読書時間の確保に努めるよう継続して学校と連携して朝読書の推進を実施していきます。

エ 児童が行きたくなるオアシスとしての学校図書室

自然と足を運びたくなる明るく、落ち着いた環境の構築をめざします。

才 学校図書室の適正整理

豊富で多様な資料の整備のために、データベース化の更なる充実、資料の利用状況と学習状況を照らし合わせた資料の除籍、買い替えを含めた蔵書の更新を図ります。

【参考資料・情報提供】

(町)

- 「令和4年度『家庭における読書活動』アンケート結果」

<https://town.matsuda.kanagawa.jp/soshiki/12/r4kateidokusyoannke-to.html>

(県)

- 「かながわ読書のススメ」ホームページ

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/gt2/dokushonosusume.html>

- 「神奈川県立の図書館」ホームページ

<https://www.klnet.pref.kanagawa.jp/>

- 「私が薦めるこの一冊」ホームページ

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/gt2/kodomodokusho.html>

- 「県立高校・中等教育学校 おすすめの本」ホームページ

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/dc4/tokushoku/koukou-booklist.html>

- 子どもの心へ届けたい本 神奈川県児童福祉審議会推薦優良図書

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/t7e/cnt/f4151/p12556.htm>

(国・各団体)

- 文部科学省「子ども読書の情報館」

<http://www.kodomodokusyo.go.jp/>

- 文部科学省「子どもの読書活動推進ホームページ」

http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/dokusyo/

- 文部科学省「学校図書館」

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/dokusho/index.htm